

20111

VOLCANO社製SyncVisionの有用性

【はじめに】当院では2014年7月よりVOLCANO社製SyncVisionを導入し簡易的なQCA、病変部の強調機能システムやIVUS画像とシネ画像を同期させられるシステムなどを利用してPCIをより円滑に進められたので報告する。【内容】VOLCANO社製SyncVisionは大きく分けて2つの機能があり1つは〈Angio+〉という機能で、もう1つは〈Co Registration〉という機能である。〈Angio+〉の中には簡易的にQCAができるシステムと病変部を強調できるVE (Vessel Enhancement) というシステムがあり当院ではこのVEを多用している。〈Co Registration〉については、IVUS画像とシネ画像を同期させ病変部の特定、病変の長さ、計測など容易にできる機能である。CAGの際にオンラインで簡易的に狭窄部の評価やPCIの際は分岐部病変やSTENT留置の位置・オーバーラップさせる位置など強調画面での操作が可能となったことや、手動録画のIVUSだが病変長が正確に計測できる点など多数の画期的なシステムによりPCIが円滑なおかつ的確に進められるようになった。【まとめ】SyncVisionを導入したことによりPCIが的確に進められるようになりとても有用であった。